

ワンコイン
で
聞ける!!

「そらのおと うみのいろ 作曲家 平野一郎の世界 2023」プレ・イベント
作曲家・平野一郎によるレクチャー&トーク

2023年 7月26日(水) 19:00 開演 | 18:30 開場

トーキョーコンサーツ・ラボ

本公演に先立って、平野一郎さんご本人によるレクチャー&トークを行います。このプレ・イベントでは、演奏曲目とその背景についてのお話を中心となります。長年のフィールドワークで得た知見と洞察を通して生まれた平野作品は、鋭い閃きや直観に導かれながらも、単なる自己表現にとどまらず、知られざる日本に隠された私たちのルーツに遡り、今日いかに生きるかまでも問いかけるような、深い使命感から生まれて来ていることを体感していただく機会となるでしょう。平野ワールドの舞台裏をご堪能ください。

本公演とのセット券なら、プレ・イベントはなんと500円!当日受付にてセット券購入画面をご提示ください。

プレ・イベントのみの参加をご希望の方は(1,000円)、ご予約をcodeshanti2023@gmail.comで承ります。当日現金でのご精算となります。

8/12

本公演 ヤマハホール

東京都中央区銀座7-9-14

地下鉄「銀座駅」より徒歩約5分(A3出口)
JR「新橋駅」より徒歩約7分(銀座口)

プレ・イベント

7/26

トーキョーコンサーツ・ラボ

東京都新宿区西早稲田2-3-18

東京メトロ東西線「早稲田駅」下車徒歩6分(2・3b出口より穴八幡神社方面へ)
東京メトロ副都心線「西早稲田駅」下車徒歩10分(2番出口)



そらのおと うみのいろ

SORA NO OTO

UMI NO IRO

作曲家 平野一郎の世界 2023

HIRANO Ichirô compositions 2023

2023年 8月12日(土) 14:00 開演 | 13:30 開場

ヤマハホール (東京都中央区銀座7-9-14)

- 鱒宮 IROKO NO MIYA (2006)
- 猿の舟 BAKU NO FUNE (2022)
- アマビエ AMABIYE (2020/2023)
- 双子の鳥 FUTAGO NO TORI (2022)
- ウラノマレビト URA NO MAREBITO (2003)
- 二つの海景 TWO SEASCAPES (2004/2007-2011)
- 空野 KUUYA (2001)

- ヴァイオリン 成田達輝 NARITA Tatsuki
- ジドレ Žydrė
- 対馬佳祐 TSUSHIMA Keisuke
- ヴィオラ 安達真理 ADACHI Mari
- チェロ 山澤慧 YAMAZAWA Kei
- ピアノ 佐藤卓史 SATO Takashi



全席指定(税込) 一般 4,000円 / 学生 2,000円
(プレ・イベントとのセット券は各+500円)

ご予約 東京コンサーツ オンラインチケットサービス
<http://confetti-web.com/TOKYO-CONCERTS>
電話予約 カンフェティチケットセンター
tel. 0120-240-540 (平日10:00-18:00 オペレーター対応)



お問合せ 東京コンサーツ 03-3200-9755 (平日11:00-16:00/土日祝休)

●やむを得ない事情により内容に変更が生じる場合がございますが、出演者・曲目変更などのために払い戻しはいたしませんので、あらかじめご了承をお願い致します。
●未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

主催 <CODE>=SHANTI 制作協力 東京コンサーツ
協賛 ワオンレコード

平野一郎を聴く・探る

日本語の夢と目醒め Hi-res
吉川真澄・うた WAONCD-540 CD [HQCD]
河野紘子/水戸見弥子/Momo - ピアノ
平野一郎「邪宗門・魔睡 女声とピアノによる連作歌曲」
武満徹「ソングス」藤羽弘晃 編曲 林光「アメリカ・アメリカ」
吉川真澄による、平野一郎・武満徹・林光の歌曲。日本語の詞に寄り添い、時に激しく渡りあり三者三様の音楽を、それぞれに個性をわだつ三人のピアニストと共に、歌う。

ピアノフォルテ・イン・グリーン Hi-res
田中綾・ピアノ WAONCD-520/521 2CD [HQCD]
平野一郎「歌を覚える鳥のソナチネ」「二つの海景」
「白象の夢～黒鏡と白鏡のエチュード～*オリジナル・ヴァージョン」
ヤナーチェク「草陰の小径にて 第1集」バルトーク「ソナチネ」ほか
「離から魂へ」作曲家・平野一郎
日本の海辺に育ち、東欧の原野を巡り、田舎の中で風変わりな教室を開く人。野生のピアニストが裸足で紡ぐ緑の響きに、草陰の小さなものたちも目をひらき、そっと耳をそばだてる。

日出ずる処、牧神の目覚め。
フロラン・シャレル - オーボエ
トマ・デルクロー - ピアノ
WAONCD-290 CD
平野一郎「上田敏の詩に拠る田園曲(エクロープ)」
牧羊神α (ob) / 牧羊神β (ob&pf) を収録

花影の小径
堤聡子・ピアノ
才村昌子・銅版画
WAONCD-280 CD
平野一郎「二つの海景」を収録

小生物音楽大全
ベトリ・クメラ - ギター
WAONCD-400 CD
平野一郎「平家壺」を収録

平野一郎「春の歌」
「夏之歌」「秋の歌」
「冬之歌」を収録

平野一郎《四季の四部作》
春夏秋冬 ~無伴奏女声独唱の為の~
吉川真澄・うた
レコード芸術誌(特選)ほか
音楽誌・オーディオ誌で受賞多数

販売/配信 株式会社キングインターナショナル/ナクソス・ジャパン株式会社 (価格はオープンプライスです) 制作・発売元 ワオンレコード waonrecords.jp

「それのおと うみのいろ 作曲家 平野一郎の世界 2023」

作曲家の平野一郎さんは、長年にわたって日本列島各地を巡り歩き、それぞれの土地で経験した祭礼とその音楽や、古くから伝わる神話や伝説の探究をもとに、唯一無二の音楽世界を展開してきました。その創作姿勢は、クレー＝ベンヤミンの“歴史の天使”にならない、過去の一切にじっと目を凝らしながら背後に続く未来へと後ずさりする、“うしろむきのアヴァンギャルド”を旗印としています。人間性の解放を軸に進展を遂げた西洋音楽の美質を受け継ぎつつも、私たちの風土に生きた先人たちが自然との交感によって培った伝承世界の精神性を今日的表現に昇華し、音の中に真摯に取り戻そうとする平野作品は、日本人が西洋音楽に携わることの意味をアクトユアルな問題として根源から問い直し、その葛藤の坩堝から新たな地平を拓くものです。平野作品の響きと調べに身を浸し、聴き感じていると、太古から未来にわたる森羅万象が、まるで奇跡を目の当たりにするように皆様の眼前に広がることでしょう。そして、私たちの中に眠っている意識が目覚め、世界の中の日本、万物の中の人間を再発見するような喜びを、無意識のうちに感じとるかもしれません。

驚くべきことに、本公演が平野さんの初の東京個展となります。「空野」op.1 (2001) から最新作に至るまで、創作の原点とも言える弦楽とピアノの作品をお聴きいただけます。一見典型的な西洋楽器と編成から、その奥底に宿る東洋起源の響きを掘り起こす独自の世界観を味わっていただけたらと思います。平野さんはこれまで京都を拠点に活動されてきましたが、多様性・多面性・多元性に溢れた日本文化の融通無碍でユニークな特質を体現する平野作品は、日本の最先端を担う東京でこそ紹介されるべきであり、これを機にさらに広がりを見せると確信しています。是非お楽しみに足をお運びいただけましたら幸いです。

主催 〈Code=“Shanti”〉

空野（2001）[無伴奏ヴァイオリン]

KUUYA for unaccompanied Violin

雲うずまく山頂。渺々たる荒野。村の辻。王城の市門。群れ集う草草の叫び。原郷の記憶は遙か、蒼空の下、道を求め彷徨うひとつの影。――六つの世界を転化する魂の旅。op.1。

ウラノマレビト（2003）[弦楽四重奏]

URA NO MAREBITO for String Quartet

常浪奇する春の渚。まれびとの訪れと師の宴。蔽かな行列と魂鎮めの儀式。謎の呪言に封じ籠められた伝説。――のたりのたりと寄せ返す波濤紋様に縁取られた、いわば音による絵巻である。

アマビエ（2020/2023）[ヴァイオラ&ピアノ]

AMABIYE Yaponesian Folk Song no.2 for Viola & Piano

「私八海中ニ住アマビエト申者也」――2020年5月にわかに動き出した、ヤポネシア≒もう一つの日本列島に響く空想民謡集の第二曲。鱗・嘴に三本足の人魚姫、可愛らしくも侮れない海の異形の靈験に、果たして疫病退散の御利益ありやなしや。

鱗宮（2006）[ピアノ/五重奏]

IROKO NO MIYA for Piano & String Quartet

海原を行く籠舟。水泡に霞む朱の鷺。海の呪いと青の葬礼。神代の終りと永遠の宴宴。――海幸山幸はじめ、天・地・海を巡る異郷訪問の神話や伝説に姿を変えて現れる海中の別世界。そこは燈びやかな宮殿が立ち並ぶ久遠の楽土が、地上を逐われた魂を封じ争う奥津城か。本当の調和と包摂を私たちの響きに託した、敢えてする大団円。

二つの海景（2004/2007-2011）[ピアノ独奏]

TWO SEASCAPES for Piano Solo

早祈りの浜 Prayer on the Seashore

黄昏の盆の入り江。浜辺に坐する女たち。沖へと還る精霊船。夕風に漂う祈りの歌。

怒れる海民の夜 The Night of Angry Seamen

暗闇に轟く海鳴りの太鼓。服ろわめ神と巡行の列影。月呼ぶ闇は太陽への呪詛。常夜の園衆が復活の祝祭。

双子の鳥（2022）[ヴァイオリン二重奏]

FUTAGO NO TORI Rites & Games for 2 Violins

リトアニアとヤポネシア――ユーラシアの両端に存する独立不羈の二世界に通底するアニミズム/フォークロアの不思議な類似が導いた半架空の文化起源譚。天衣無縫の二奏者が原初のポリフォニーを奏でつつ、太古と未来を今に結ぶ祀りと遊びを繰り広げる。

猿の舟（2022）[無伴奏チェロ]

BAKU NO FUNE Barcarolle for Unaccompanied Cello

水平線の彼方へ絶え間なく笑いながら漕ぎ続ける最狂の舟歌。舟の主たる猿は緩とも記し、鼻は象・目は犀・尾は牛・足は虎・体は熊に似ると謂う。猿（猿）印かかげる宝船に乗って正月の枕の下に潜り込み、人々の頭と鼻に燻る凶々しい夢という夢をばくばく喰べて片っ端から吉へと転じるのだから最強である。



©MakiTakagi



©Marco Borggreve



平野一郎（作曲家）HIRANO Ichirō

丹後國宮津出身。1996年より各地の祭礼と音楽を巡る踏査を始動。97年京都市立芸術大学卒業、99年大学派遣によりプレーメン芸術大学に留学、2000年京都市芸大大学院修了。01年より作曲活動を本格開始、京都を拠点に日本の風土や伝承に根差した創作を展開。響きや調べ、声と言葉の根源をたずね、失われた身体性・全人性を呼び覚ます音楽世界を志す。日本交響楽振興財団作曲賞最上位・日本財団特別奨励賞（2005）青山音楽賞（2007）京都市芸術新人賞（2007）現音富樫賞（2013）藤堂音楽褒賞（2018）京都府文化賞奨励賞（2019）等受賞、ISCM世界音楽の日々2008入選・参加。2011年演奏家・美術家らと協働しモノオペラ「邪宗門」制作・初演。「鱗宮△交響曲」（2010/芦屋交響楽団）「いそぼのふわぶらす」（2011/ザ・フェニックスホール）「四季の四部作」（2014/吉川真澄）「壺氣樓●協奏曲」（2014/森本英希）「八幡大縁起」（2016/やわた市民音楽祭）「綺多羅」（2017/大萩康司）「鳥ノ遊ビ」（2017/通崎睦美）「ピアノソナタ〈光人彷徨〉」（2022/イリーナ・メジュエワ）等委嘱作品多数。“館野泉 左手の文庫”委嘱作品として「精霊の海」（2011）「微笑ノ樹」（2012）「二重協奏曲〈星巡ノ夜〉」（2014）「鬼の生活」（2021）「鬼の学校」（2022）を手掛ける。ほか16年アンサンブル・ノマド定期#56にて女声＋電気ギター＋サクソフォン＋コントラバス＋打楽器による「龍を踏む者」（DUOうたほぎ）初演、18年二面の復元正倉院〔四/五絃〕琵琶＋笙芋＋打物＋8人の群声による「胡絃乱聲」（国立劇場）初演、19年正月NHK-BS8K番組〈落慶～奈良・興福寺～〉音楽制作、同春42人の邦楽合奏曲「とこよのはる」（森の会）初演、21年打楽器合奏曲「ヤポネシアの森から」（金沢市民芸術村）初演、22年多和田葉子書き下し台本による五幕のオペラ『あの町は今日もお祭り』（くにたち市民芸術小ホール）初演など、次々と新境地を開拓し反響を呼ぶ。17年より出雲芸術アカデミー＝コンポーザー・イン・レジデンス拜命、《出雲の春音楽祭》にて“未来の伝統芸術”を謳う「連作交響神樂」（全九部作/管弦楽＋声楽）進行中。「平野一郎は現代日本で私が最も高く評価する作曲家のひとり」（ピアニスト/館野泉）「作曲家の平野一郎さんも物語の旅人である。彼は、物語、伝説、神話そのものから、それを求める旅の情景までを音で紡ぎだす。」（探検家/高橋大輔）「平野の作品は、現実と幻想、現代と太古を融け合わせ、忘れられた伝説や異界の音風景を今に蘇らせつつ、多彩な音楽世界を拓いている。」（建築家・建築史家/マヌエラ・アントニウ）など様々な方から注目を集めている。

成田達輝（ヴァイオリン）NARITA Tatsuki

ロンニティボー国際コンクール(2010)で第2位およびセサム賞受賞、エリザベート王妃国際音楽コンクール(2012)にて第2位およびイザイ賞受賞、仙台国際音楽コンクール(2013)でそれぞれ第2位受賞。著名指揮者および国内外のオーケストラと多数共演し高い評価を得るとともに、リサイタルやジャンルにこだわらない様々なアーティストとの室内楽においても圧倒的なテクニックと多彩な表現力を披露している。現代作曲家とのコラボレーションも積極的に行っている。これまでに、澤田まさ子、市川映子、藤原浜雄、ジャン＝ジャック・カントロフ、スヴェトリン・ルセフ、フローリン・シゲティ、田中綾子の各氏に師事。海外での演奏活動も積極的に行っており、2018年、2019年には韓国平昌で行われた音楽祭に参加し、ソン・ヨルム、スヴェトリン・ルセフらと共演。2018年はミンスクで行われたユーリ・バシュメット音楽祭にも参加している。使用楽器は、アントニオ・ストラディヴァリ黄金期の“Tartini”1711年製(宗次コレクションより貸与)。

ジドレ（ヴァイオリン）Žydrė

リトアニア生まれ。国際的な音楽活動に対してリトアニアのD.グリバウスカйте大統領(2015年)とG.ナウセーダ大統領(2020年)から、国際デビューの成功と功績に対する賛辞を公式に受ける。第7回あおよし音楽コンクール奈良(グランプリ)、第7回S.ヴァイニユナス国際室内楽コンクール(第3位、S.ヴァイニユナス作曲作品ベスト・インタープリテーション特別賞)など、国内外の数多くの国際コンクールで上位受賞。

また、ダボス音楽祭(2021年)のダボス・カメラータ、セント・クリストファー室内管弦楽団 (2016–2017年のシーズン)ではコンサートマスターを務める。現在は、2021–2023年シーズンの金沢市民芸術村のアーティスト・イン・レジデンスとして活動。

對馬佳祐（ヴァイオリン）TSUSHIMA Keisuke

東京芸術大学を経てバリ国立高等音楽院ヴァイオリン科を首席で卒業。同音楽院修士課程室内楽科修了。第8回江藤俊哉ヴァイオリンコンクール第1位。2010年フランス・パッサ国際音楽コンクール第1位。2014年リヨン国際室内楽コンクール・デュオ部門にて最優秀現代曲賞受賞。2016年ルーマニア国際音楽コンクールにてグランプリ(全部門最優秀賞)受賞。Music Dialogue デュオ・プロジェクトにて最優秀賞。袋井・月見の里室内楽アカデミー2022講師。新日本フィルハーモニー管弦楽団、N響団友オーケストラ、大田フィルハーモニー管弦楽団他とソリストとして共演。日本、フランスを中心に各地でコンサートマスター、首席奏者として客演。NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』挿入音楽にてソロ演奏を務める。玉井菜採、田中千香士、ジェラルド・ブルー、ボリス・ガルリツキー、室内楽を上田晴子の各氏に師事。ヴィルトス・クワルテット、東京バロックプレイヤーズメンバー。古楽奏者、ヴィオラ奏者としても多数の演奏会に出演している。CD『ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第13番&大フーガ』『東京オペラシティ・ライブ』発売中。

安達真理（ヴィオラ）ADACHI Mari

日本フィルハーモニー交響楽団ヴィオラ客演首席奏者。ソリスト、室内楽奏者としても幅広く活動している。桐朋学園大学卒業、ウィーン国立音楽大学室内楽科を経てローザンヌ高等音楽院ソリスト修士課程修了(卒業試験でローザンヌ室内管弦楽団と共演)と国内外で研鑽を積み、2013年からインスブルック交響楽団にて副首席奏者を2年間務めた。2016年よりバーヴォ・マルヴィ氏率いるエストニア・フェスティバル管弦楽団のメンバーとして、バルヌ音楽祭等に参加。2019年の来日ツアーでは、各地で行われた全てのプレコンサートにおいて、五嶋みどり氏とモーツァルトの二重奏曲を披露した。アミティ・カルテットとして2022年よりバルトークの弦楽四重奏曲全曲演奏会チクルス、DSCH弦楽四重奏団としてショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲全曲演奏会チクルスを開始。CD『Winterreise』『J.S.バッハ 組曲&バルティータ』『MY DEAR』をリリース。https://www.mariadachi.com

山澤慧（チェロ）YAMAZAWA Kei

古典作品の勉強を地道に重ねながら、現代音楽の演奏や作曲家への委嘱を積極的に行い、チェロの可能性を探求し続けている。2015年以降、20世紀以降に書かれた無伴奏チェロ曲のみを集めたリサイタルシリーズ「マインドツリー」を毎年開催。2020年からは同シリーズの一環として、J.S.バッハの無伴奏チェロ組曲をテーマに据えたプログラムを6ヶ年計画で展開している。2021年には新シリーズ「邦人作曲家による作品集」をスタートさせた。東京芸術大学附属高校、同大学を経て、同大学院を修了。大学卒業時に同声会賞受賞、大学院修了時に大学院ア kansas 賞受賞。第10回ヒバホールチェロコンクール第3位。第2回秋吉台音楽コンクールチェロ部門第1位。第11回現代音楽演奏コンクール“競奏XI”第1位、第24回朝日現代音楽賞受賞。音川健二、藤沢俊樹、河野文昭、西谷牧人、鈴木秀美、山崎伸子の各氏に師事。文化庁新進芸術家海外研修員として、フランクフルトにてアンサンブル・モデルンのチェロ奏者、Michael Kasper氏に師事。アミティ・カルテット、カルテット・オリープ、チェロアンサンブルXTCメンバー。藝大フィルハーモニア管弦楽団首席チェロ奏者、千葉交響楽団契約首席チェロ奏者。

佐藤卓史（ピアノ）SATO Takashi

秋田市生まれ。高校在学中に日本音楽コンクールで優勝し一躍注目を浴びる。東京藝術大学を首席で卒業後渡欧、ハノーファー音楽演劇大学、ウィーン国立音楽大学で研鑽を積む。2006年ミュンヘンARD国際コンクール特別賞、2008年シドニー国際コンクール第4位・ショパン賞、2010年エリザベート王妃国際コンクール入賞、2011年カントゥ国際コンクール第1位、メンデルスゾーン国際コンクール最高位など受賞多数。中でも2007年シュペルト国際コンクールでの優勝と、その後の世界各地での演奏活動を通して“現代随一のシューベルト弾き”の名声を確立した。指揮者ジョナサン・ノットの指名により同氏の東京交響楽団音楽監督就任披露演奏会のソリストに抜擢されたのはじめ、N響、日本フィル、大阪響、ベルギー国立管など内外の主要オーケストラと共演。2014年より「佐藤卓史シューベルトツィクルス」を開始、ライフワークとしてシューベルトのピアノ曲全曲演奏に取り組んでいる。近年は作編曲の分野でも活動を本格化し、2021年にはオリジナル作品集「『ラクリメ』変奏曲～佐藤卓史：2台ピアノ作編曲集」（ライヴノーツ）をリリース。放送出演、室内楽、執筆など活躍の場は幅広い。www.takashi-sato.jp